

拳銃を捨てろ (1956)

メディア 映画

ジャンル サスペンス アクション

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1956/12/19

【解説】

久生十蘭の『われらの仲間』を「母子像」の植草圭之助がシナリオ化し「大学の石松 太陽族に挑戦す」の小石栄一が監督した。撮影は「夕日と拳銃 日本篇 大陸篇」の藤井静、音楽は「母白雪」の飯田三郎が担当。「母孔雀」でも共演した高倉健と田代百合子が再びコンビを組んだ。

建築中のビルから転落して死亡した青年技師の草間。関係者は過失による死と判断するが、草間の親友だった柳光だけは疑惑の目を向けていた。彼は加藤秀子の店に呼び出されるが、同僚たちから犯人ではないかと詰め寄られ、秀子の協力により裏口から逃げ出し、草間の妹ジュン子のアパートを訪れた。柳はジュン子に身の潔白を訴え、二人で犯人を捜そうと約束するが、同僚の竹島に監禁されてしまう。竹島たちは草間が遺した、乱数表のようなメモを狙っていた。そこには不正工事の実態と、隠された金塊のありかが示してあるのだった。

【クレジット】

監督 小石栄一

企画 依田一郎

光川仁朗

原作 久生十蘭

脚本 植草圭之助

撮影 藤井静

美術 森幹男

音楽 飯田三郎

出演 高倉健

田代百合子

園ゆき子

高木二郎

花沢徳衛